

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100225		
法人名	医療法人社団水澄み会		
事業所名	グループホームアゼリア だんだん		
所在地	島根県松江市黒田町475-7		
自己評価作成日	令和5年2月22日	評価結果市町村受理日	令和5年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月季節の行事を行ない季節を感じていただいている。
運営推進会議では、学習会を行っており、参加された御家族や地域の方に好評を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づいて、利用者がその人らしく生活出来る様に生活習慣や日々の思いに寄り添い情報を共有して支援している。今年度2名の看取り支援に取り組み利用者や家族、関係者と話し合いを行い、家族も納得した最期の関わりが出来る様に支援をした。毎月ひな祭りや納涼祭、運動会など行事を企画したり、桜の開花に合わせたドライブや屋外から花火大会の様子を見たり、出来る方法で出来る限り季節を楽しめるように支援し、利用者の普段と違う表情や言葉を聞いている。法人関係の事業所との協力関係があり感染対策時に利用者、家族、職員の安全・安心に繋がる備品をすぐ対応して貰えた。

職員は出来る限り行事、

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や研修等で理念について話し合い日々のケアに反映するように努めている。	日々利用者の視点に立ち、本人本位の暮らしになるようにケアを振り返り理念に沿った支援に努めている。カンファレンスや研修などで話し合い共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス流行から地域との付き合いは控えている。	運営推進会議の参加者に地域自治会長、副会長、民生委員、防災隊などの参加があり、コロナ禍でも事業所の取り組みを伝え協力や理解を得ている。地区の溝掃除に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を文書で開催し、取り組みや学習会内容を地域に配信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し取り組みや学習会等を行ったり、意見交換を行ないケアに活かすようにしている。	コロナ禍、書面での開催をして、利用者の状況、行事、インシデントや学習会の様子を報告している。返信封筒を同封し、活発な意見や感想を貰いサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った際や疑問なことは聞き助言を貰っている。運営推進会議には社協の方に毎回参加して頂き意見を頂いている。	日頃から加算の変更時や事故発生時に報告し助言を貰っている。感染時の対応など事細かな情報提供や備品の調達など協力が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、部署内で話し合う場を設け、身体拘束防止に向けた話し合いをしている。	定期的に話し合い、理解を深めている。起床時ベットからの転倒について行動を抑制しない工夫や、スピーチロックに繋がらないように本人に具体的に説明するなど意識して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての学習会を年1回は必ず行っている。必要時は都度学習会やケアを振り返る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修があれば参加している。権利擁護が必要な方がおられたら活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時にご家族に説明し納得して頂くように努めている。グループホームでできる範囲を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やプラン更新時にご家族の要望等を聞きプランに反映するようにしている。家族会や運営推進会議でも意見を頂き運営に反映させるようにしている。	家族アンケートの実施や、定期的に受け持ち職員が電話や写真付きたよりで日頃の様子を報告している。運営推進会議の報告を全家族に配布し、事業所の状況も伝え意見や要望を聞くように努めている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談等で職員の意見や提案等を聞く機会を設け業務等に反映している。	月一回のユニット会議や、日々、気になった事や共有した方が良いと思う事はその都度一緒に話し合い運営に反映させている。各勤務に合わせて休憩時間を設け業務を見直し改善に繋げた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加するように勧めている。月1回は全体で学習会を行い報告書を書いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での他の事業所の方と交流を持ち困ったときに助言を貰い業務改善やケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事を本人や家族から聞き、本人が安心して過ごせるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会を控えているため、家族に電話報告する際に家族の要望や思いを聞くようにし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望や思いを聞き、プランに反映しサービスを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中でお客様と一緒に家事や手作業等を行ない、お互いに協力して生活できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を控えているため、家族と会うことはできていないですが手紙やアルバムなどを預かった時はお渡ししている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を控えているため、家族からの手紙やアルバムをいただき、本人にお渡しし、そこから会話している。	コロナ禍で外部の人との交流はできないが、家族には写真や電話で様子を伝えている。職員と一緒に地域の慣れ親しんだ名所に出掛け気分転換を図ったり、家族と通院で出掛ける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方と近くの席にしたり、職員が間に入りお客様同士が交流できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や病院等に情報提供し経過をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中でお客様の話を聞くようにし思いを汲みとるようにしている。意志疎通が困難な方には本人本意で検討したり家族に話を聞き意向を把握するようにしている。	会話や表情、家族からの聞き取り情報から思いの把握に努め本人本位の暮らしに繋げている。一人ひとりの気持ちに寄り添うことを大切にし、不安を感じる利用者の気持ちに対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの生活歴や暮らし方等を聞き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの一日の過ごし方を観察し、できることや出来ないことを把握しできることは継続して行って頂くよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のニーズや要望を聞きプランに反映するようにしている。職員で話し合いプランを作成している。	利用者、家族の希望を聞き、自宅での生活習慣が継続出来る様に介護計画を作成している。体調変化に合わせて居室内での動線に長椅子を設置し安全に歩行が出来る様に見直した人もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿って本人の様子や言葉等を記録に記入するようにしている。気になる事があるときは職員間で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診等で家族が対応できない時は職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブに出かけ、普段と違う、景色を楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医としている。定期的に主治医に往診に来て頂いている。状態変化時は主治医に報告し対応している。	利用者、家族の希望のかかりつけ医を継続し適切な医療が受けられるよう医師、家族と連携している。定期的な訪問診療や眼科、皮膚科など専門外来は家族と受診する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事や気づいたことがあれば看護師に報告・相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に情報を提供し、退院前カンファレンス等に参加し退院後も安心して過ごせるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で主治医や家族とカンファレンスを行ない、急変時の確認を行なっている。終末期には再度カンファレンスを行ない希望される場合は看取りを行っている。	重度化、終末期の状態に合わせ、家族、医師と話し合いを重ね、方針の共有に努めている。今年度2名の看取りを行い、感染対策に留意して家族も泊り納得した支援に取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の学習会を毎年行っている。応急手当普及員の研修を受講するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回避難訓練を行なうようにしている。消防署の方に参加してもらい助言を頂いている。	避難訓練の実施や併設の他事業所と災害に関する学習会を行い意識づけをしている。浴槽に水を溜めたり、備蓄品の管理を行い、地域の防災隊とも協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の声に耳を傾けるようにし、プライドを傷つけないような言葉かけをするようにしている。	尊厳や接遇、プライバシーなど学習会に参加し理解を深めている。日頃のケアの中で利用者の気持ちを尊重した声掛けや対応に努め、入浴時はバスタオルを掛けるなどプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客さまに決めて頂けることは聞き、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの体調や思い等に合わせながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方には整髪をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの好みを考え提供している。調理や盛付け、片付け等できることを一緒にして頂いている。	盛り付けや片づけ、野菜の皮むきなど出来る事を一緒に行い、食材やメニューを話題にして場面作りをしている。毎月行事食の希望をとり入れたり、専門職により食材や栄養管理が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客さまに合わせた形態で提供している。食事摂取量や水分量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お客様に合わせた口腔ケアを行なっている。介助が必要な方には義歯ブラシや舌ブラシ、スポンジブラシを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様の排泄パターンに応じて介助している。できるだけトイレでの排泄が出来るようにしている。	利用者の状態に合わせ、声掛けや誘導を行いトイレで排泄が出来る様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や繊維の多い野菜等を摂取するように働きかけている。便秘の方には下剤を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気の進まない方には無理にお誘いせず、時間をおいたり、翌日に変更している。	利用者の習慣や希望に合わせた対応をしている。「遅い時間がいい」人、湯船の中で歌を歌う人など気持ちに寄り添い個別に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡はして頂くようにし、その他体調に応じて休んで頂くようにすることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をカルテに綴じ内容を把握できるようにしている。薬の変更があった場合は職員で情報共有し、状態に変化あれば主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々歌の好きな方には音楽をかけ一緒に歌って頂いたり家事等手伝いができる方には手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスから外出回数は減ったが月1回を目安にドライブをし、普段と違う表情や言葉などを記録している。	天気の良い日には近所を散歩したり、中庭で日光浴など外気に触れる機会を作っている。地域の催しの花火を屋外から見たり、桜見物などコロナ禍でも出来る事を工夫し楽しめるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安になられる方には少額のみ自分で持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話や手紙を希望されることは少ないが本人の意向を大切にしている。郵便物が届いた際は本人に渡し、見て頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホール、居室等には写真を掲示し季節の展示物を飾り楽しんで頂けるように工夫している。	季節の掲示物や習字を飾っている。ソファで仲の良い人達とゆっくり寛げるように工夫をしたり、ラジカセを置きいつでも音楽が聴ける環境にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、仲の良い方たちが隣に座りゆっくりくつろげるように空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使っていた家具を置いたり、写真等を飾り安心して過ごせるように工夫している。	自宅で使用していた筆筒や布団など在宅時の環境に近づけて生活している。転倒リスクのある人は家族と話し合い、家具の配置を工夫し安全な環境で過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒リスクを考え居室の家具等の配置を行っている。安全に生活できるように環境整備を行なっている。		